

## 「令和元年度北九州市高齢者等実態調査」の結果報告

### 【調査の概要】

(1) 調査目的 北九州市内に在住する高齢者等の保健福祉に関する意識や新たなニーズを把握し、次期いきいき長寿プラン策定の基礎資料とするため、調査を行ったもの。

(2) 調査対象

- ・一般高齢者 : 市内在住、65歳以上、要支援・要介護認定非該当の方
- ・在宅高齢者 : 市内在住、65歳以上、要支援・要介護認定を受けている方
- ・施設入所高齢者 : 市内の介護保険施設に入所している方
- ・若年者 : 市内在住、40～64歳の方

※住民基本台帳及び介護保険データベースより無作為抽出

(3) 調査方法 郵送による配布・回収（無記名）

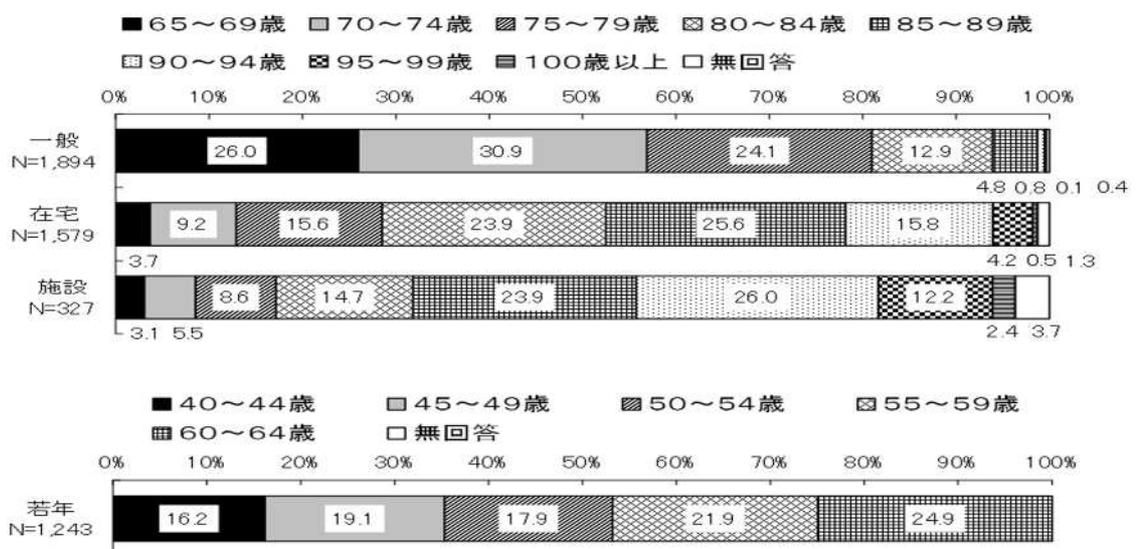
(4) 調査期間 令和元年11月22日～令和元年12月20日

(5) 調査結果

- ・一般高齢者 : 配布票数3,000 回収票数1,894 回収率63.1%
- ・在宅高齢者 : 配布票数3,600 回収票数1,579 回収率43.9%
- ・施設入所高齢者 : 配布票数600 回収票数327 回収率54.5%
- ・若年者 : 配布票数3,000 回収票数1,243 回収率41.4%

※報告書の中で「一般」とあるのは一般高齢者、「在宅」とあるのは在宅高齢者、「施設」とあるのは施設入所高齢者、「若年」とあるのは若年者をさす。

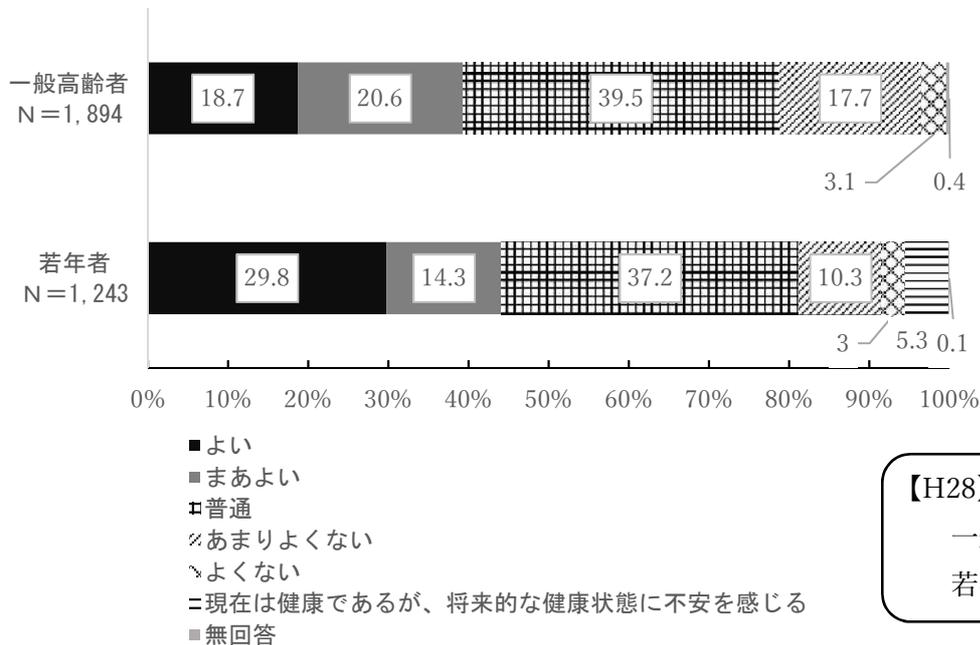
### 【回答者の年齢構成】



**【健康・医療】**

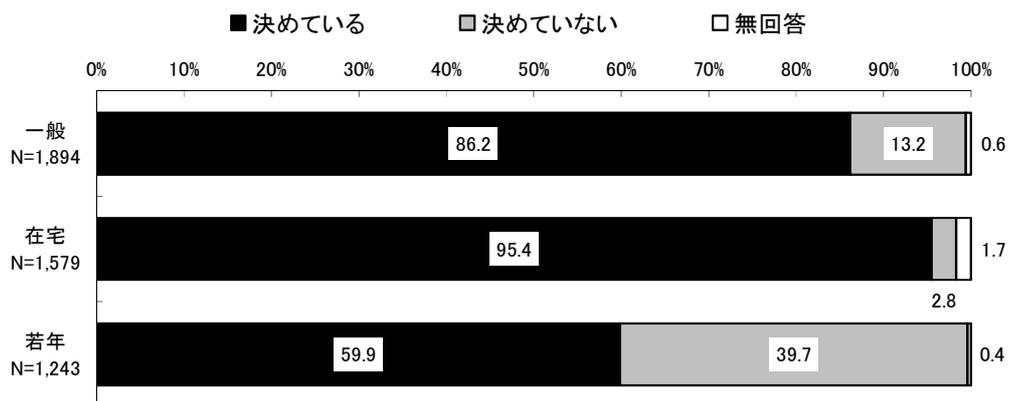
**(1) 健康状態 (報告書 7 ページ)**

健康状態については、普通以上 (「よい」、「まあよい」、「普通」の合計) の割合が、「一般」は78.8%、「若年」は81.3%と、「一般」「若年」とともに、高い割合となっている。



**(2) かかりつけ医決定の有無 (報告書 8 ページ)**

かかりつけ医を「決めている」人の割合は、「一般」は86.2%、「在宅」は95.4%と高い割合となっている。一方、「若年」は6割弱にとどまっている。

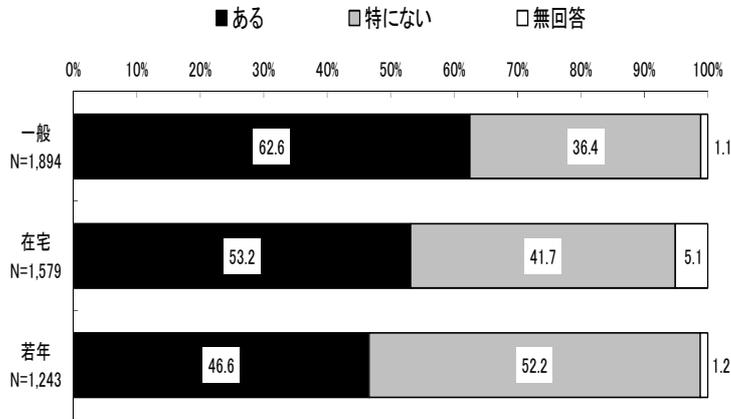


健康状態	割合 (%)
一般	82.9
在宅	94.5
若年	62.1

**【介護予防】**

**(3) 健康づくり・介護予防（フレイル予防）の取り組み状況（報告書12ページ）**

日頃から取り組んでいることがある割合は、「一般」は62.6%、「在宅」は53.2%、「若年」は46.6%にとどまっている。



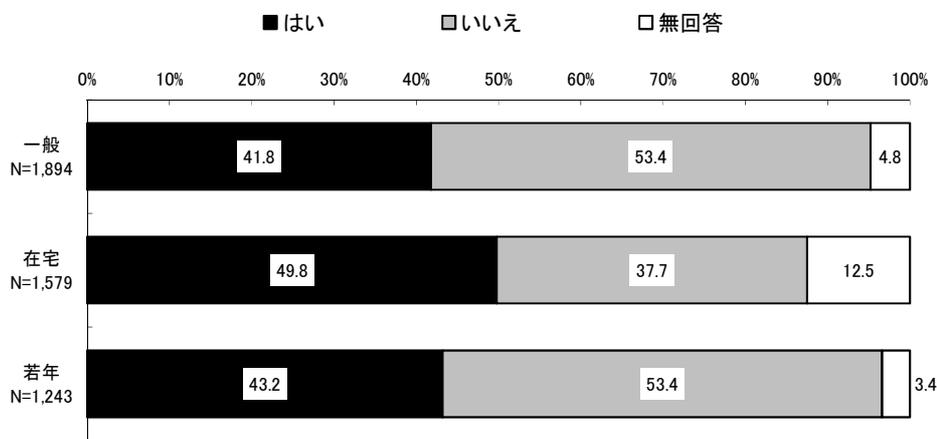
**【H28】**  
取り組んだことがある割合

	一般	在宅	若年
割合	68.3%	60.6%	53.3%

**【地域包括支援センター】**

**(4) 地域包括支援センターの認知度（報告書41ページ）**

「地域包括支援センターを知っていますか」という質問に対して、「はい」と回答した割合は、「一般」は41.8%、「在宅」は49.8%、「若年」は43.2%となっている。



**【H28】**  
知っている割合

	一般	在宅	若年
割合	39.0%	53.0%	34.3%

## 【高齢者の就労・地域との関わり】

### (5) 高齢者の就労状況（報告書24ページ）

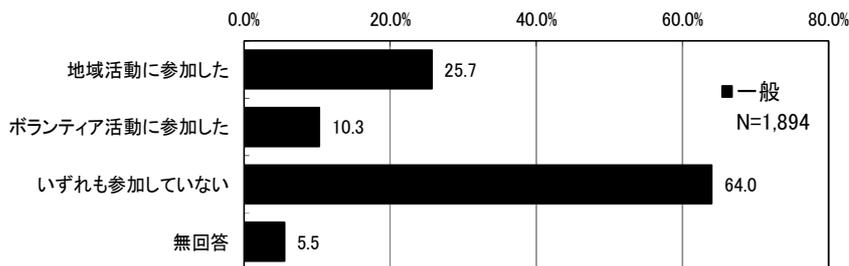
「一般」高齢者の就労状況については、「以前は働いていたが、現在は働いていない」が57.4%で最も多いが、「働いている」が29.8%と3割近くになっている。

【H28】

働いている割合  
一般 24.7%

### (6) 地域活動の状況（報告書20ページ）

この1年間に、「一般」高齢者で、地域活動に参加した割合は25.7%、ボランティア活動に参加した人は10.3%、いずれも参加していない人は、64.0%になっている。



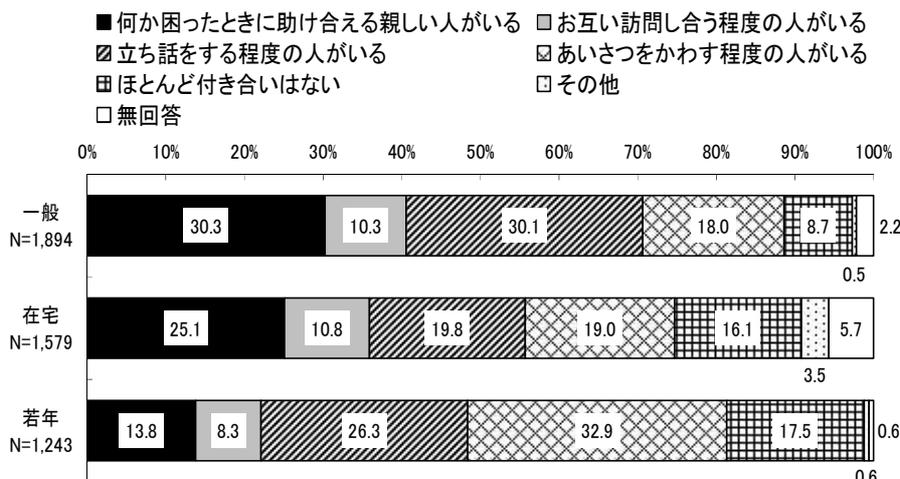
【H28】

地域活動に参加している割合  
一般 31.8%

※前回調査から選択肢を一部変更し、「ボランティア活動に参加した」を追加

### (7) 近所づきあい（報告書29ページ）

近所で親しく付き合っている人がいるか尋ねたところ、「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」は、「一般」は30.3%、「在宅」は25.1%で最も多いが、「若年」では13.8%にとどまっている。また、「若年」は「一般」「在宅」に比べ、「あいさつをかわす程度の人が多い」が多く、32.9%となっている。



【H28】

「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」と答えた割合

一般：30.1%

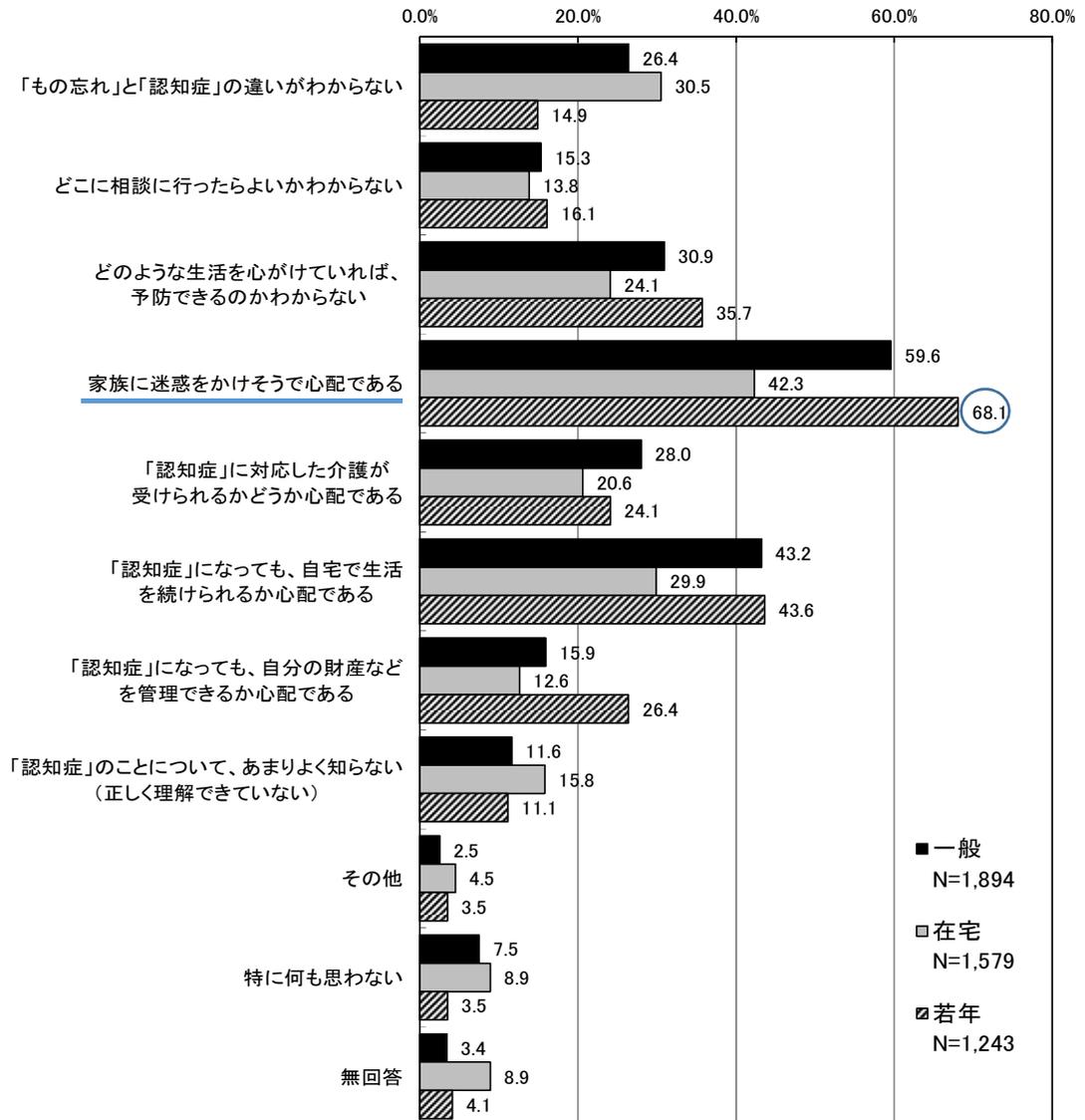
在宅：26.8%

若年：15.5%

## 【認知症】

### (8) 認知症と聞いて最初に思うこと（報告33ページ）

認知症と聞いて、最初に思うことはどのようなことか尋ねたところ、「家族に迷惑をかけそうで心配である」が最も多く、「一般」は59.6%、「在宅」は42.3%、「若年」は68.1%となっている。次いで、「認知症になっても、自宅で生活を続けられるか心配である」の回答が多い。



#### 【H28】 認知症について、不安に感じること

「家族に迷惑をかけそうで心配である」

一般：43.8%    在宅：35.9%    若年：66.0%

「認知症になっても、自宅で生活を続けられるか心配である」

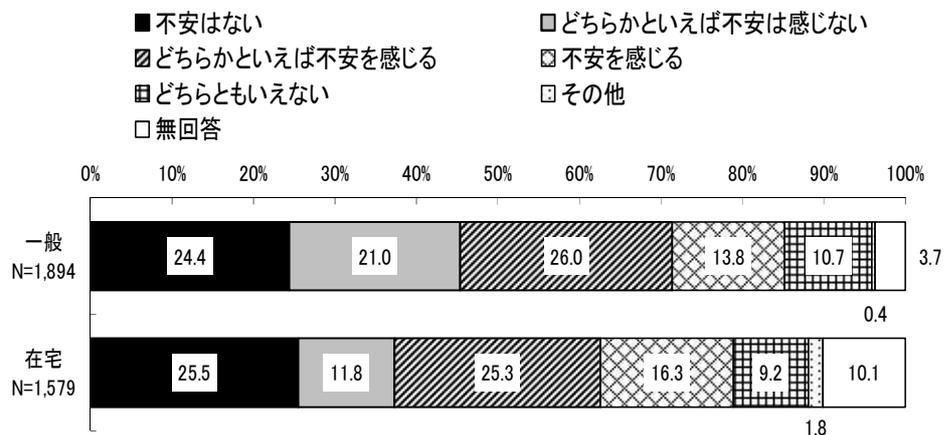
一般：35.0%    在宅：27.2%    若年：46.7%

※前回調査から設問の文言を変更（「不安に感じること」を「最初に思うこと」に変更）

**【権利擁護】**

**(9) 高齢者の権利侵害に対する不安（報告書37ページ）**

虐待や財産をねらった詐欺など高齢者の権利を侵害するものに対する不安があるか尋ねたところ、「不安はない」、「どちらかといえば不安は感じない」を合わせた割合は、「一般」は45.4%、「在宅」は37.3%となっている。これに対して「不安を感じる」、「どちらかといえば不安を感じる」を合わせた割合は、「一般」は39.8%、「在宅」は41.6%と、「在宅」のほうが不安を感じている割合が高いことがわかる。

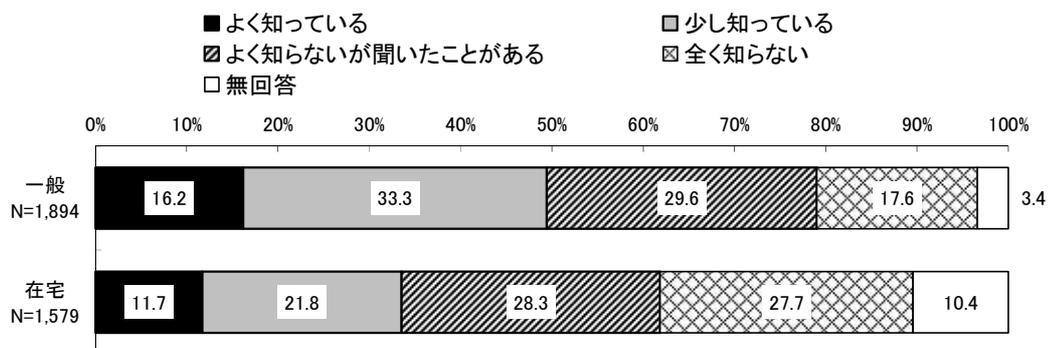


**【H28】 「不安はない」「どちらかという不安は感じない」合わせた割合**

一般	54.2%
在宅	51.5%

**(10) 成年後見制度の認知度（報告書37ページ）**

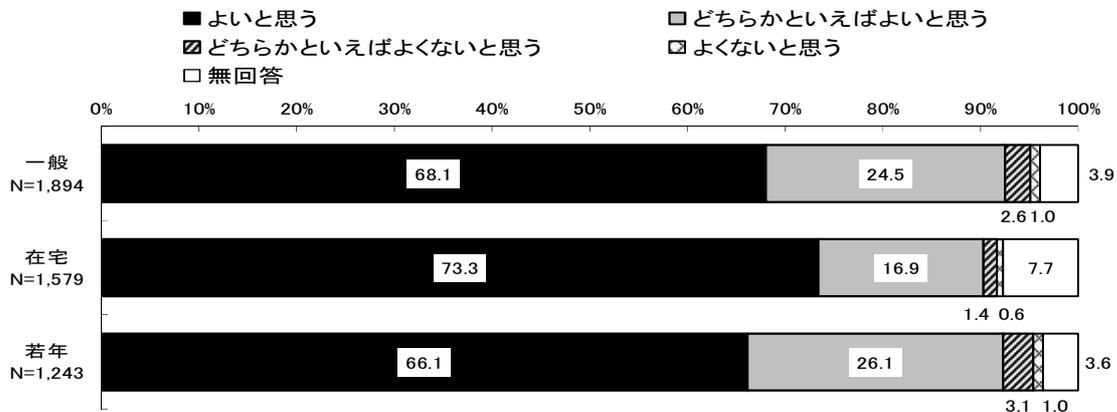
成年後見制度を知っているか尋ねたところ、「一般」では「少し知っている」が33.3%で最も多く、次いで「よく知らないが聞いたことがある」が29.6%となっている。「在宅」では「よく知らないが聞いたことがある」が28.3%で最も多く、次いで「全く知らない」が27.7%となっており、「一般」に比べ、認知度が低い。



## 【介護保険】

### (11) 介護保険制度に対する考え（報告書44ページ）

介護保険についてどのように考えるか尋ねたところ、「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」と答えた人と合わせると、「一般」は92.6%、「在宅」は90.2%、「若年」は92.2%と、いずれも9割を超え、高い評価となっている。



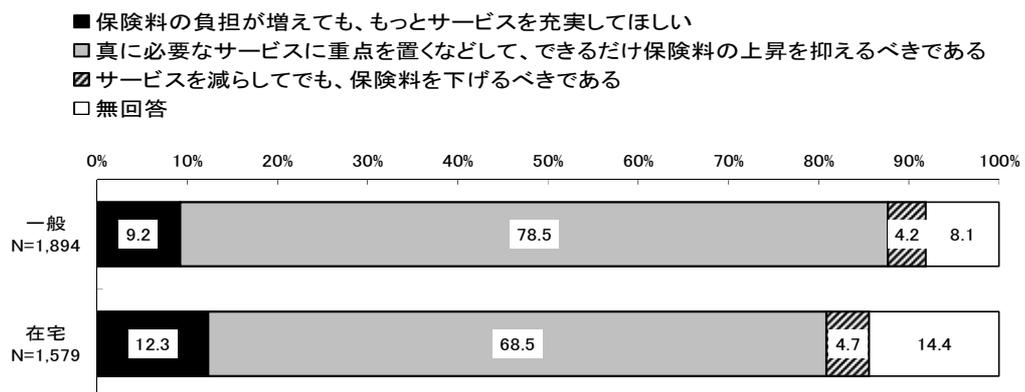
#### 【H28】

よいと思う、どちらかといえばよいと思うと答えた割合  
 一般: 78.7% 在宅: 82.0% 若年: 77.7%

※前回調査から選択肢を一部変更し、「わからない」を削除

### (12) 介護保険の負担に対する考え方（報告書51ページ）

介護保険サービスと介護保険料の関係についての考えを尋ねたところ、「真に必要なサービスに重点を置くなどして、できるだけ保険料の上昇を抑えるべきである」が最も多く、「一般」は78.5%、「在宅」は68.5%となっている。



#### 【H28】「真に必要なサービスに重点を置くなどして、できるだけ

保険料の上昇を抑えるべきである割合

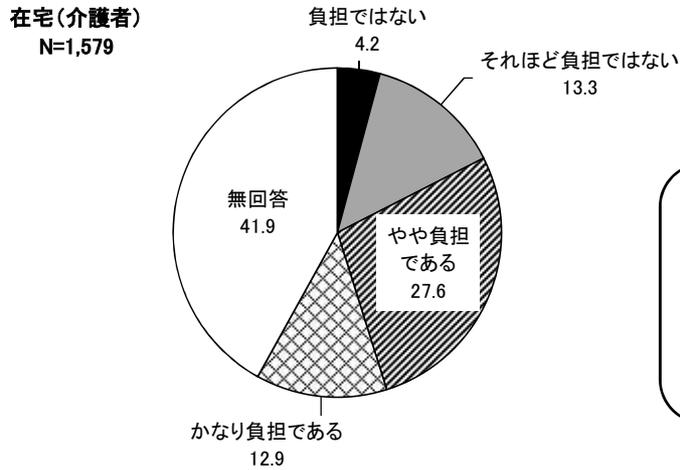
一般: 70.2% 在宅: 58.0%

※前回調査から選択肢を一部変更し、「わからない」を削除

**【介護の負担感】**

**(13) 介護の負担感 (報告書75ページ) 【介護の負担感】**

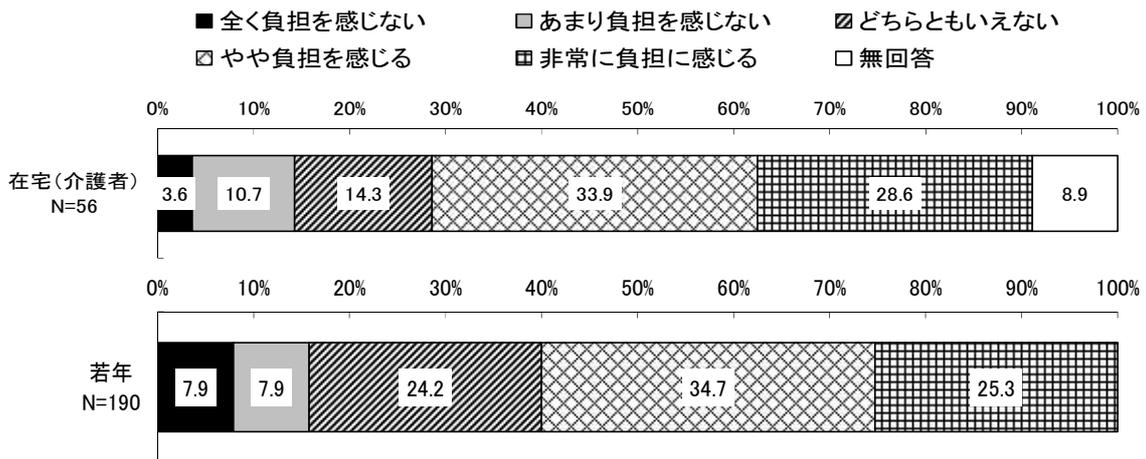
介護者が感じている介護の負担感については、「かなり負担である」が12.9%、「やや負担である」が27.6%と、介護に負担を感じている人はあわせて40.5%となっている。一方で、「それほど負担ではない」は13.3%、「負担ではない」は4.2%となっている。



**【H28】**  
 「かなり負担である」「やや負担である」合わせた割合  
 介護者 38.1%

**(14) 子育てと介護 (ダブルケア) に対する負担感 (報告書63ページ)**

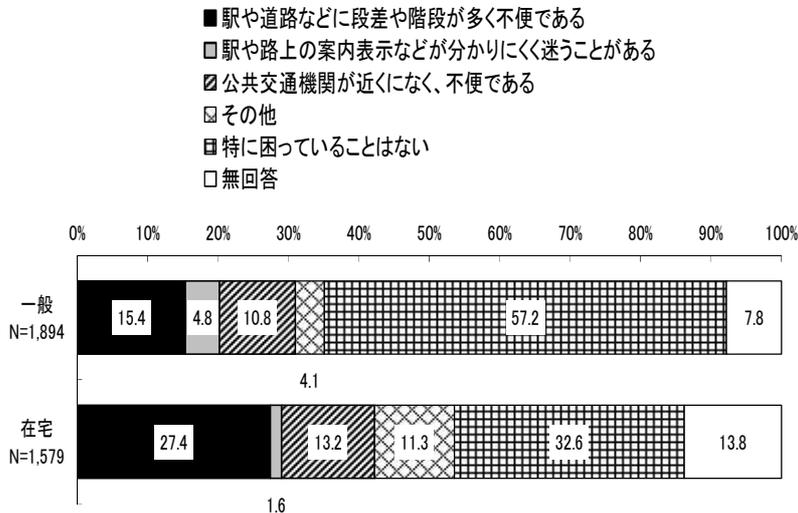
介護と子育ての両方をしていると回答した人に、子育てと介護 (ダブルケア) の負担感を尋ねたところ、「やや負担を感じる」、「非常に負担を感じる」と回答した人が、「在宅」(介護者)は62.5%、「若年」は60.0%と高い割合となっている。



## 【生活環境】

### (15) 外出・移動時の問題点 (報告書53ページ)

外出や移動のときに最も困っていることは何か尋ねたところ、「特に困っていることはない」が「一般」は57.2%、「在宅」は32.6%と最も多くなっている。



#### 【H28】

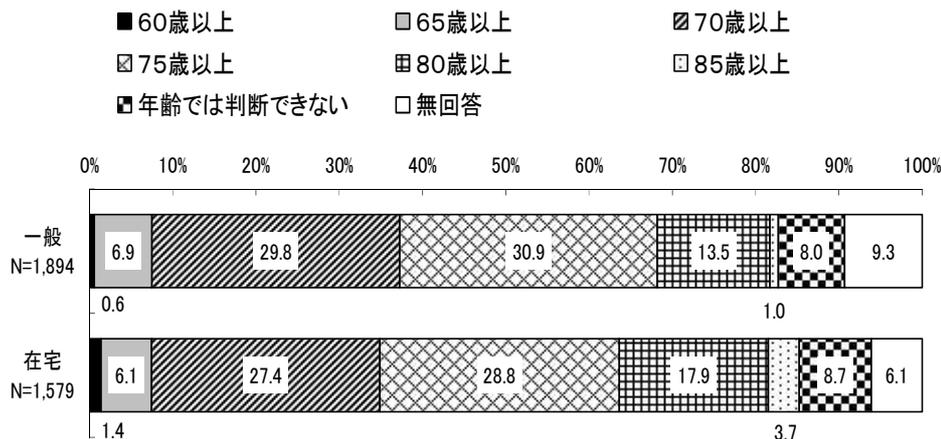
「特に困っていることはない」割合

一般	63.3%
在宅	33.2%

## 【高齢者の意識】

### (16) 高齢者の意識 (報告書57ページ)

何歳頃から「高齢者」だと思うか尋ねたところ、「75歳以上」が「一般」は30.9%、「在宅」は28.8%と最も多く、次いで「70歳以上」が「一般」は29.8%、「在宅」は27.4%、「80歳以上」が「一般」は13.5%、「在宅」は17.9%の順となっている。



#### 【H28】 高齢者だと思う割合

「75歳以上」	一般：29.0%	在宅：23.9%
「70歳以上」	一般：33.9%	在宅：30.9%

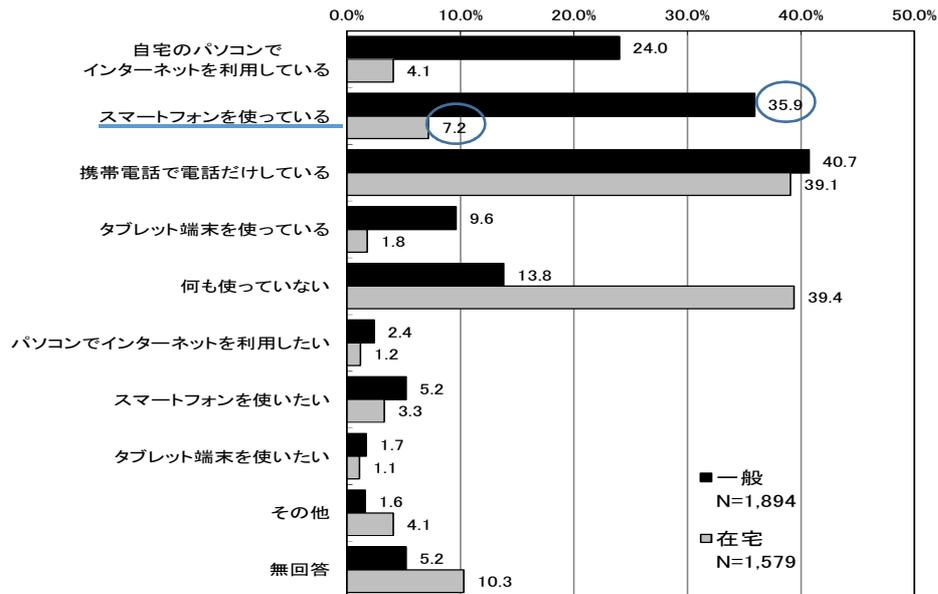
※前回調査から選択肢を一部変更し、「わからない」を削除

## 【最近のトピックス：今回新たに調査したもの】

### (17) ITリテラシー（報告書27ページ）

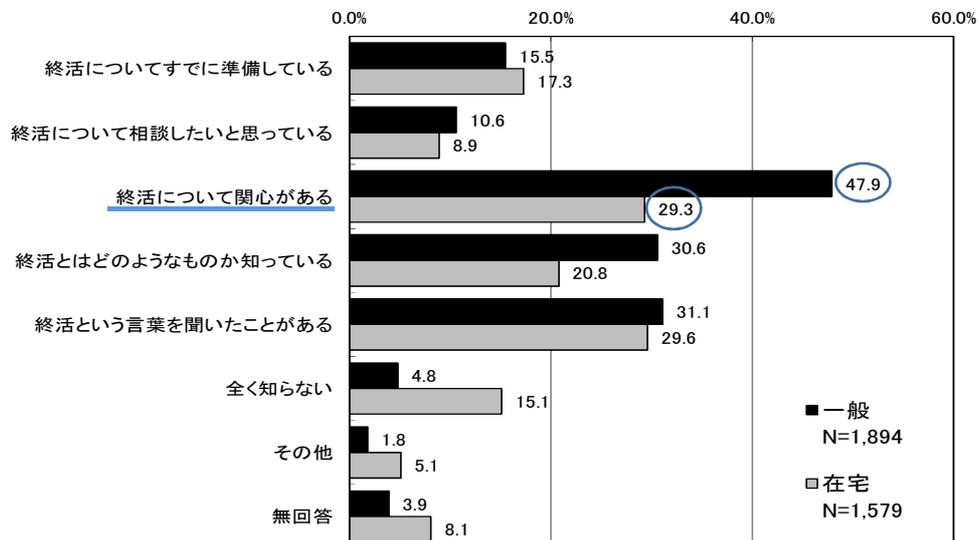
高齢者のインターネット等の活用状況について尋ねたところ、「一般」は、「携帯電話で電話だけしている」が40.7%で最も多いものの、次いで「スマートフォンを使っている」が35.9%となっている。「在宅」は、「何も使っていない」が39.4%で最も多く、「スマートフォンを使っている」のは7.2%にとどまっている。

「スマートフォンを使っている」と回答した人を年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて割合が低くなるが、65～69歳は、「一般」は65.9%が、「在宅」の24.1%が「スマートフォンを使用している」と回答している。（報告書28ページ参照）



### (18) 終活（報告書31ページ）

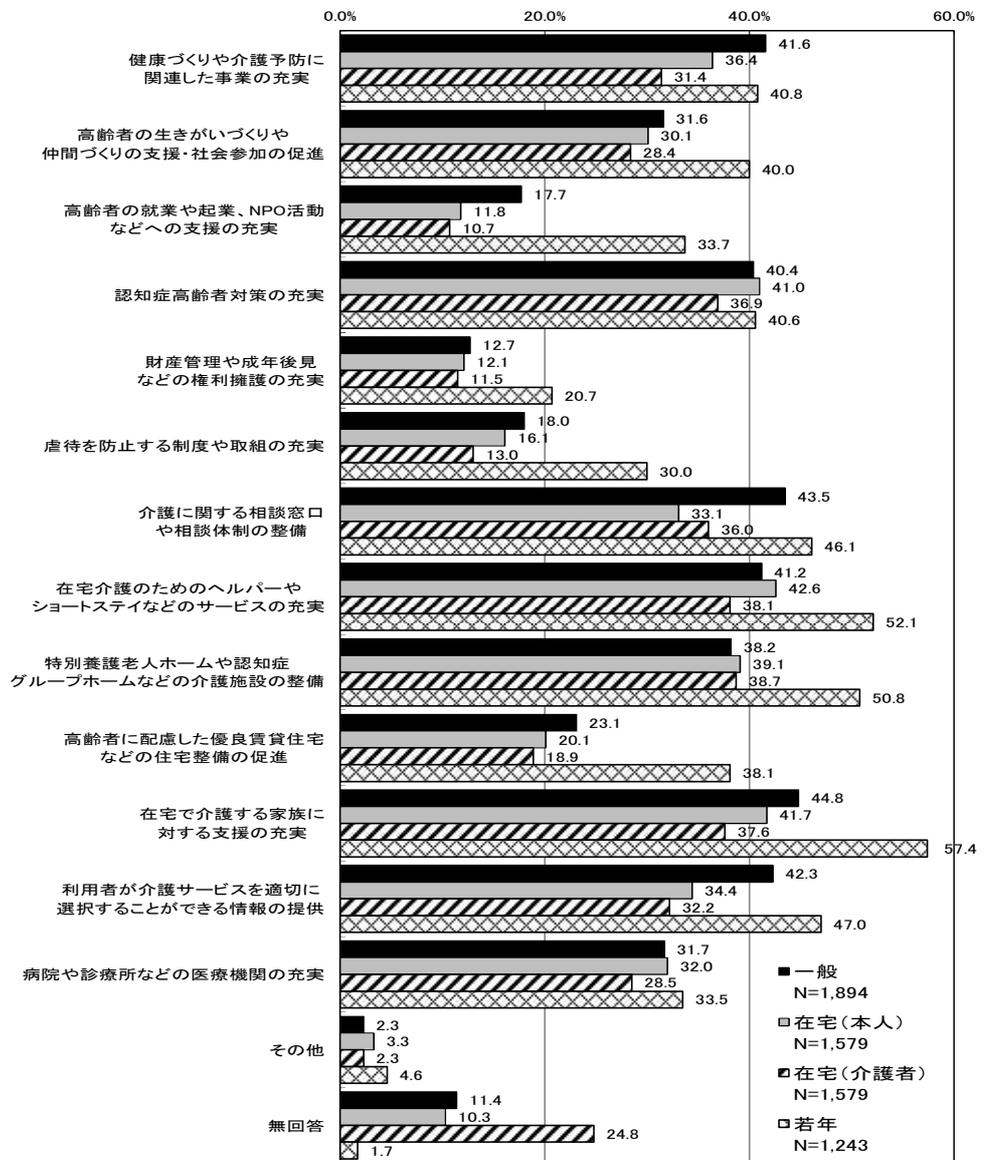
終活について尋ねたところ、「一般」では、半数近くの47.9%が「終活について関心がある」と回答している。次いで「終活という言葉聞いたことがある」が31.1%、「終活とはどのようなものか知っている」が30.6%の順となっている。「在宅」では、「終活という言葉聞いたことがある」が29.6%で最も多く、次いで「終活について関心がある」が29.3%、「終活とはどのようなものか知っている」が20.8%の順となっている。



## 【高齢者福祉施策】

### (19) 北九州市が力を入れていくべき施策（報告書61ページ）

北九州市が力を入れていくべき施策を尋ねたところ、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」、「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」、「特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの介護施設の整備」など幅広い施策に多くの回答があった。



#### 【まとめ】

- 健康状態が良いと答えた割合や就労している高齢者が増えている。また、高齢者とする年齢は上がっており、特に一般高齢者については、終活への関心、スマホの利用率も高い。いきいきと生活している高齢者が増えているといえる。
- 介護保険制度の評価、地域包括支援センターの認知度は上がっているものの、健康づくりや介護予防に取り組んでいる人は減少しており、介護の負担感も増加している。
- 高齢者の権利侵害への不安、認知症になっても自宅で生活を続けられるかの不安は高くなっており、高齢者が住みたい場所で安心して暮らせるには、今後より一層の取組が必要である。